

# 早期景気観測調査

**【10-11月期 調査結果概要報告書】**

平成27年12月



**甲府商工会議所**

## ◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成27年11月15日(火)～30日(水)
4. 調査対象： 当所会員155事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 110件
7. 有効回答率： 71.0%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

## ◆結果概要

【10-11月期の動き】

**業況はほぼ横ばいの推移。仕入単価は改善に向かうが、人手不足が続く。業況の先行きは改善を見通している。**

10-11月期の全業種総合業況DIは▲19.1(前期比▲1.2)と2期連続の悪化となったものの、悪化幅は小さく、前期からほぼ横ばいの推移である。採算DIは▲15.1→▲20.9と前期から悪化しているが、売上DIは▲20.8→▲21.8とほぼ横ばい。また、仕入単価DIは▲39.6→▲30.9と3期ぶりに改善したが、飲食店やホテル等で輸入食材を中心に仕入価格の上昇が見られる。向こう3ヶ月の先行きは業況DI▲19.1→▲9.1と改善を見通している。

業種別では製造業・小売業では前期から改善、卸売業・建設業・サービス業で悪化となった。

製造業の業況DIは0.0(前期比+23.1ポイント)、2期ぶりにマイナス水準を脱した。先行きを除く全項目でDIは前期から改善し、前期で大きく悪化となった売上・採算DIは6-7月期の水準へ回復した。仕入単価DI(▲24.1)もここ3年では非常に高い水準へ改善しているが、状況は改善と言うよりも悪化傾向の減速に留まっている。

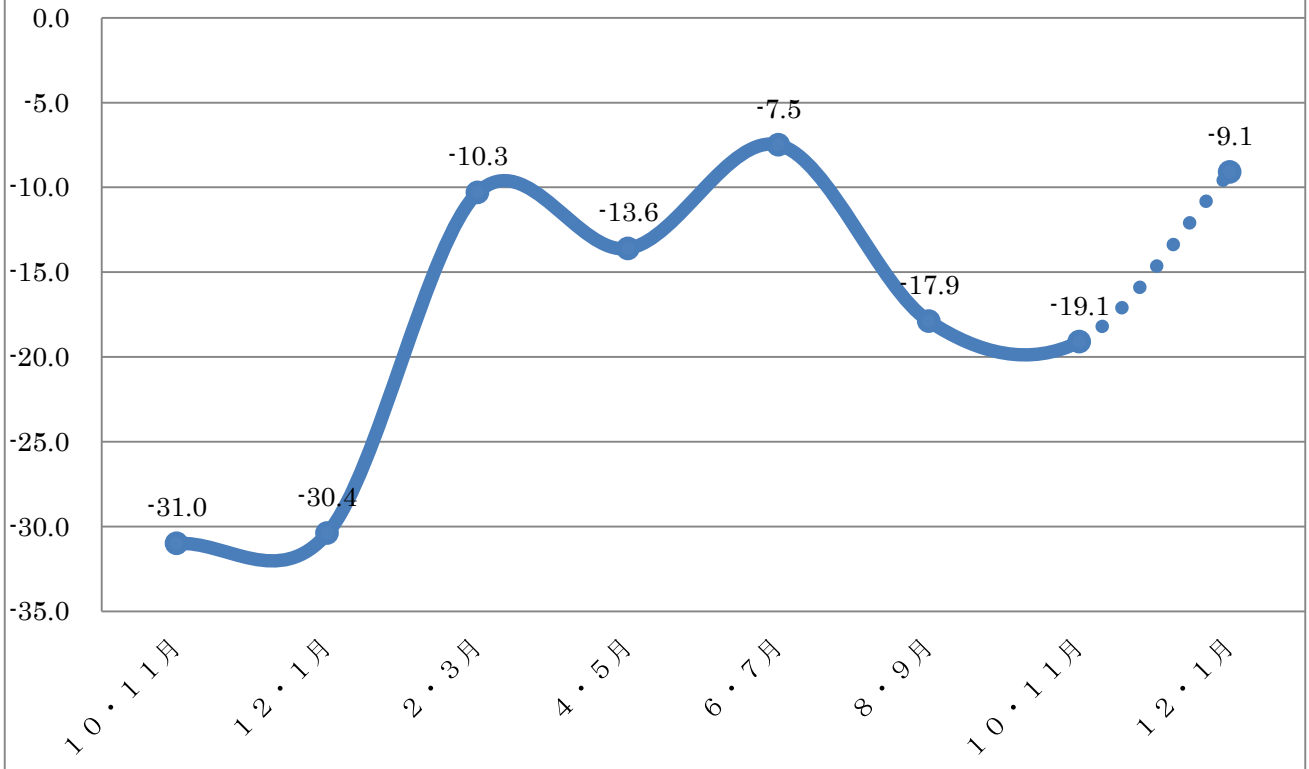
小売業の業況DIは▲50.0(前期比+1.9ポイント)と改善に転じたが、実態はほぼ横ばい。業況DI▲50.0は5業種中最低値。売上・採算・仕入単価のいずれも極めて低い水準を推移し、従業員も不足傾向にある等、苦しい状態が覗える。企業からは消費の冷え込みや、輸入食材の高騰といった声が聞かれた。

卸売業の業況DIは2期連続の悪化となり、▲5.9(前期比▲30.9ポイント)で5期ぶりのマイナス水準となった。繊維を扱う事業所を中心に、気温がなかなか下がらず、冬物衣料の動きが悪いとの声が聞かれ、売上・採算DIはマイナス値へと悪化した。仕入単価DIは改善に転じ、▲17.6と比較的高い水準となった。従業員DIは17.6と人手不足の傾向が続く。

建設業の業況DIは▲31.6(前期比▲1.6ポイント)と若干の悪化に転じた。各項目に大きな動きはなく、景況感は足踏み状態にあるが、仕入単価DI(▲21.1)は改善が進み、同業種では非常に高い水準にある。公共・民間工事の減少や価格競争を懸念する声が聞かれた。

サービス業の業況DIは▲5.3と悪化に転じ、マイナス水準となった。売上・採算はいずれも前期から大きく悪化し、マイナス値となったほか、小売業同様に輸入食材の高騰が原因となり、仕入単価DIが前期から悪化している。

# 業況D I の推移






## ◆全業種・業種別詳細

### ※ D I 値 ( 景況判断指数 ) について




D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

### ◆指標の見方

前回D I に比べて ( 先行は今回実績値に比べて )		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「↗」 (改善) と表示しております。  
従業員D I は、従業員が不足している場合、「↗」 (改善) と表示しております。

## ◆全業種総合

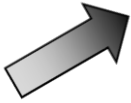





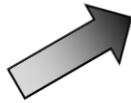
業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲19.1	▲9.1	▲21.8	▲20.9	▲30.9	10.0	0.0

10-11月期の全業種総合の業況D I は、**▲19.1** (前期比▲1.2ポイント) と2期連続で悪化となった。売上D I は今期で2期連続の悪化となったものの、▲20.8→▲21.8 と下げ幅は小さく、ほぼ横ばいの動きだが、採算D I は▲15.1→▲20.9と悪化している。従業員D I は10.4→10.0とほぼ横ばいで、人手不足傾向の継続が窺える。仕入単価D I については▲39.6→▲30.9と改善。ここ3年では比較的高いD I 値となるが、各事業所からは食材を中心に輸入価格上昇の声が聞かれる。金融貸出しについては横ばいの推移。

尚、向こう3か月の業況の先行きについては、改善を見通している。

## ◆ 業種別


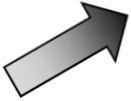

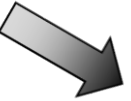


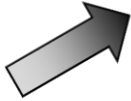
### 製造業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
0. 0	▲6. 9	▲6. 9	▲3. 4	▲24. 1	▲0. 0	▲0. 0

業況DIは▲23. 1→0. 0と改善に転じ、2期ぶりにマイナス局面を脱した。見通しを除く今期各項目は全て前期より改善を示し、前期で大きな落ち込みを見せた売上(▲26. 9→▲6. 9)・採算(▲23. 1→▲3. 4)の2項目は改善に転じ、それぞれ2期前(6-7月期)の水準に回復した。仕入単価DIも▲34. 6→▲24. 1と2期連続の改善となり、平成24年の8-9月期以来、およそ3年ぶりに▲20台の水準まで回復した。しかし、今期のDI改善は前期の「悪化」事業所が今期で「不変」となった事が主因で、今期は改善というより悪化傾向の鈍化に留まっている。従業員・金融貸出しDIはいずれも3期ぶりに改善に転じ、マイナス水準を脱した。

向こう3ヶ月の業況は悪化の見通し。



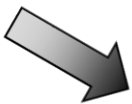
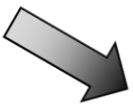
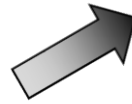


### 建設業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲31. 6	▲26. 3	▲31. 6	▲31. 6	▲21. 1	10. 5	5. 3

業況DIは▲30. 0→▲31. 6と僅かながら悪化に転じた。項目別では採算DI(▲30. 0→▲31. 6)が悪化、従業員DIは前期比+0. 5ポイント増で人手不足の傾向が続いているものの、売上・仕入単価・金融貸出しDIは改善した。改善となった売上DI(▲35. 0→▲31. 6)は3期連続、仕入単価DIは▲34. 6→▲21. 1と2期連続の改善となった。▲50以下が常態で、極めて低い水準にあった仕入単価DIはここ1年で改善が進み、今期はここ3年で2番目に高い水準にある。しかし、今期の改善は製造業と同じく、「悪化」から「不変」への推移が主因である。中国の経済減速が起因の資源価格の低下も、資材価格にまでは及んでいないという声も聞かれた。

また、公共・民間工事の減少や、業者間の価格競争激化といった現状も聞かれ、業況の改善には時間を要すると見られる。向こう3ヶ月の業況は若干悪化の見通しとなった。

### 卸売業


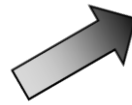


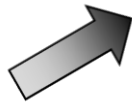
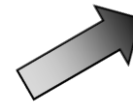

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲5.9	23.5	▲5.9	▲11.8	▲17.6	17.6	5.9

業況DIは25.0→▲5.9と2期連続の悪化、5期ぶりにマイナス水準へと落ち込んだ。今期DIは仕入単価、先行きを除く5項目で悪化となった。暖冬の影響で冬物衣料の出足が悪く、繊維を扱う事業所を中心に業況の悪化が見られた。

売上DIは12.5→▲5.9と、業況DIと同じく5期ぶりにマイナス水準に落ち込み、採算DIにおいても18.8→▲11.8と大幅な悪化となった。一方、仕入単価DIは▲17.6（前期比+13.7）と前期から改善へ向かっている。従業員DIも31.3→17.6と前期から弱まったものの、未だに人手不足の傾向が続き、金融貸出しDIは前期比▲6.6で2期連続の悪化となった。

向こう3ヶ月の業況は改善に転じる見込み。



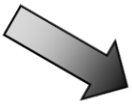


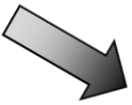
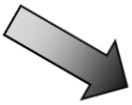
### 小売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲50.0	▲30.8	▲50.0	▲50.0	▲42.3	11.5	▲3.8

業況DIは▲50.0（前期比+1.9ポイント）と若干の改善に転じたものの、DI値は全業種中最も低い水準となっている。前期より改善となったのは売上・仕入単価の2項目。売上DIは3期ぶりの改善となったが小幅な改善に留まり（▲55.6→▲50.0）、未だに低水準にある。仕入単価DIも低い水準にあるものの前期比+17ポイントと大きく改善した。一方、採算DIは前期から13.0ポイント悪化し、▲50.0。従業員DIにおいても、前期比+7.8ポイントと人手不足の傾向が強くなっている。金融貸出しDIは前期から0.1ポイント悪化し、3期連続の悪化となった。

向こう3ヶ月の業況は改善を見通している。

サービス業







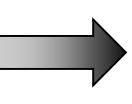
業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 5. 3	5. 3	▲ 10. 5	▲ 5. 3	▲ 47. 4	15. 8	▲ 5. 3

業況 DI は▲5. 3と悪化に転じ、5期ぶりのマイナス水準となった。今期は先行きを除く全項目で DI は悪化に転じている。中でも悪化幅が大きかったのは売上 DI (▲10. 5) で、前期比▲39. 9ポイントと大幅に悪化、5期ぶりのマイナス水準となった。採算 DI (▲5. 3) も前期比▲22. 9ポイントの悪化となり、業況・売上と同じく5期ぶりのマイナス値。ただし、採算の悪化は前期で「好転」と回答した層が「不変」へと推移したことが主な要因である。また、燃料価格の下落による今後の採算向上を見込む声も聞かれた。仕入単価 DI は5業種中、唯一悪化へ転じている。他の業種と比較し、売上や採算の面で比較的好調であったサービス業も、仕入単価 DI は低調な推移が続く。飲食店やホテル・旅館において輸入食材の価格が上昇しているとの声が聞かれた。金融貸出し DI については悪化に転じ、3期ぶりのマイナス値となった。


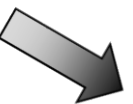


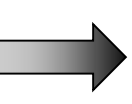
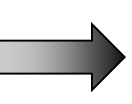
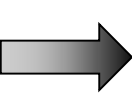
向こう3ヶ月の先行きは改善を見通している。

◆ 業種別詳細

製造業 (食品)


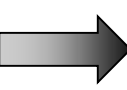





業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業 (家具)








業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						




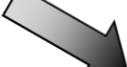
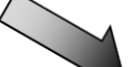
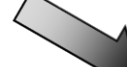



製造業（工業製品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						



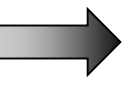
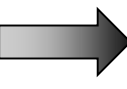



製造業（宝飾）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						


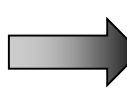


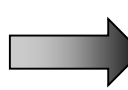


製造業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						






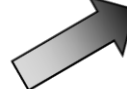
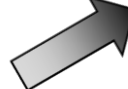
建設業（建築）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

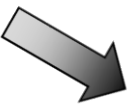

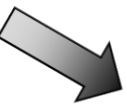
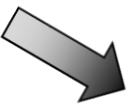


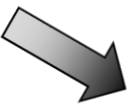
建設業（土木）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

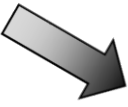



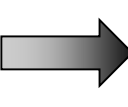
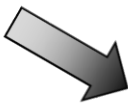
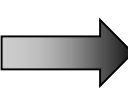
建設業（鉄鋼）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						


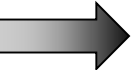





卸売業（食品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						







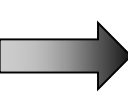
卸売業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

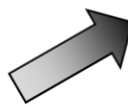
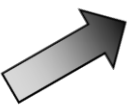
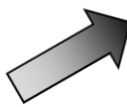
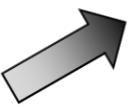


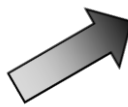
卸売業（その他）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						








小売業（大型店）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

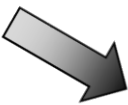






小売業（食料品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						


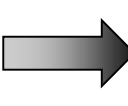
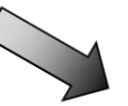
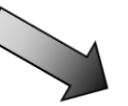


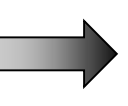
小売業（事務用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						




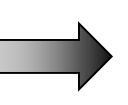
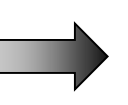

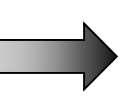
小売業（趣味・日用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						


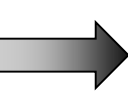
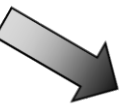



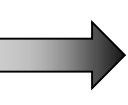
小売業（家電）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						






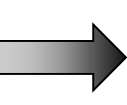

サービス（ホテル・旅館）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食その他）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

## ➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

### 【製造業】

#### 製造業（食品）

- ・ホテル、おせち、レストラン関係が好調。また、多店舗展開している居酒屋の業績が好調。通販カタログも活気あり。
- ・今年も仕込みが始まり繁忙期へ突入。酒造りも本格的になり、当社としても活気が出てきている。好調の特定銘柄酒は昨年よりも増産。これにより、その他の製品にも力を入れ、来年度に向けいい方向になるよう期待が高まる。

#### 製造業（家具）

- ・住宅マンション業界は 9.10 月共に昨年実績を割り込んだ。経済界は確かにグロスでは明るい見通しはあるが、それは優勝劣敗の結果であって勝者からの見方である。中央と地方、大企業と中小企業、恵まれた業種と衰退していく業種、等々格差は益々ついている。

#### 製造業（工業製品）

- ・近国（中・韓）の動きによってかなり厳しい景気に。特に中国の動きでスクラップなどの価格が変化し素材価格が下落・・・。加工代金などに悪影響が出る。
- ・スマホ向けの受注が好調によりフル稼働状態。業界集計でも10月はスマホ向けを中心に、水晶製品の受注は増加となっている。

#### 製造業（宝飾）

- ・プライダル中心のビジネスを展開しているが、マーケットの縮小が気になる。

#### 製造業（ニット・アパレル）

- ・消費税の増税、年金額の縮小等、将来の不透明感からか、一般の消費動向は勢いが弱く店頭での売り上げは低調。一方で外国人観光客の来日の増加からか、日本製製品のスペースを広げる動きも有り、オーダーロットは大きくないものの、中・高額品の受注は伸びている。マイナスとプラスの要因が交錯している。

## 【建設業】

### 建設業（建築）

- 建設業界においては、ゼネコンの発注時期の遅れや、計画自体に工期の無理がある。（収益性確保による長期検討や交渉によるものが殆どである）土日祭日出勤は当たり前で、若い人材の確保に当然不向きな業界を、魅力ある業界にしていくのは至難の業だ。
- 公共工事の減少の為、今後大変厳しくなると思う。
- 電化製品の動きは非常に悪い。

### 建設業（土木）

- 公共・民間工事が減少しており、H28年3月迄の発注・受注の目標がたたない。今日業者間の競争が激しく、赤字覚悟で工事受注しなければならず、当分の間苦難の道が続く。なお、消費税が10%になると益々民間投資が冷え込んでくる。未来の夢を求めるも良いが、現在、中小企業の苦しみの解決が先のように思う。

### 建設業（鉄鋼）

- いつもの年末と違って活気が無い、見積もりが少ない状況。
- 鉄鋼原料は安くなっているが、鋼材単価までに反映されていない。人手不足からくる県外土木工事の遅れにより、当社製品の据え付けが遅れている物件が多い。

## 【卸売業】

### 卸売業（食品）

- 10月、11月と多少の停滞気味。

### 卸売業（繊維）

- 冬物商品の出が悪く、高額商品の出足が遅い。

## 【小売業】

### 小売業（大型店）

- 最高気温が20℃を超える日が続き、ファッション及び見回り品雑貨ショップについてはジャケット・コート類など秋～冬商品の動きが鈍かった。食品についても、10月は野菜が高騰の上、魚も秋刀魚や酒の、秋主要商品が品薄・高騰で苦戦した。また、初冬のカキも出荷遅れや品薄で鮮魚ショップが苦戦した。
- 衣料品、寝具の動きが悪かった。消費の冷え込みや、例年よりも暖かい日が続いたことが考えられる。また、食材の仕入れ価格も上昇している。

### 小売業（趣味・日用品）

- 昨年同期と比べると大分好転したが、先行きはまだまだ不透明。

## 【サービス業】

### サービス業（ホテル・旅館）

- 求人しても応募が無く人手不足。
- 外国人観光客の利用は河口湖→石和→甲府の順番で動く為、甲府では影響が少ない。また、日本人観光客の減少が見られる。
- 人材の確保が困難。
- 週末は殆ど満室、空室を探す方も多く見られた。ウィンツーリズム、紅葉などを見に来る近県からの個人のお客様も増えた様に思う。又、いろいろなイベント等もあり、大きなホテル旅館はインバウンドのお客様も多く入るようなので、小さな会社に個人客が回るようになったのではないかと。食材の仕入れ単価は上昇している。

### サービス業（観光）

- 売上高は前年比横ばいだが、燃料単価の下落により採算性向上を見込んでいる。
- 特に11月の週末は天候悪化により売上が落ち込んでしまった。
- 団体客の動きが良くない。個人客は変わらない様子。食材の仕入値に上昇の動きがある。

### サービス業（飲食その他）

- 例年通りの流れで特別な変化はない。
- 10月頃から消費の減退が感じられる。鰻は夏が需要期で、涼しくなると売上は減少していく。近年の高値で益々鰻離れが進んでいる。円安で輸入食材等値上がりしているが、売値を上げるわけにはいかない。
- 12、1月は毎年恒例の忘年会、新年会の時期であり、売上は増加すると思うが、従業員不足が深刻である。

以上